



4

コロナとウクライナを
むすぶ黒い太縄
殺ったのは誰？なぜ？
安倍暗殺からプリゴジンの死まで

はじめに

1

「コロナ騒ぎ」が自然発生ではなく裏でペンタゴン（国防総省）が指揮して人工的につくられたものだという証拠が段々と蓄積されつつあります。

それを二〇二三年二月二三日に愛知県春日井市での講演会で話したのですが、それを一刻も早く本にして欲しいとの声があり、連日、その編集校正に追われてきました。

その3回目の「校正」が先日やっと終わりましたので、今この「はじめに」に取りかかることができました。

すでに私は、「コロナ騒ぎ謎解き物語」全3巻、「ウクライナ問題の正体」全3巻を出しているのですが、もうこれ以上は「コロナ騒ぎ」や「ウクライナ問題」については書きたくないと思ってきたのですが、今の情勢がそれを許してくれません。

それで80歳目前の老体に鞭うって、この「はじめに」を書き始めています。

2

ウクライナ情勢はキエフ政権の敗北が決定的になっているにもかかわらず、戦争終結の見通しが見えてきません。それはバイデン政権の目標がウクライナ軍を使ってロシアの弱体化、あわよくば政権転覆にまで、もっていきたいからに他なりません。

ですから、ウクライナ兵がどれだけ死のうが戦争がどれだけ長引こうが一向にかまわないのです。それどころかウクライナが「404国家」となり国家として存続しなくなっても、ロシアと共倒れになってくれれば、バイデン政権にとっては万々歳でしょう。

ただひとつバイデン政権が気にしているのが次期大統領選挙で勝てるかどうかだけです。トランプ前大統領が勝てば戦争はすぐ終わりますが、人気ガタ落ちのバイデンがトランプに勝つためには特別な戦術が必要です。もういちどコロナ騒ぎを引きおこして、それを口実に「郵便投票」に持ち込むかもしれません。

さもないと投票の不正操作ができなくなるからです。日本のように皆が投票所に行き、投票が終わったら立会人の監視の下で、手作業で投票を勘定すれば、開票作業は一晩で終わりますし、めったに票の不正操作ができません。が、電子投票や郵便投票では、その不正操作が容易にできるからです。

ですから今度の大統領選挙では、バイデン政権が新しい変異株を実験室でつくり、それを自然発生に見せかける戦略が密かに練られている可能性があります。

3

「コロナ騒ぎ」はアメリカ国防総省が裏で指揮命令して

きたことは、製薬業界で長年働いてきたラティボワ女史がFOIA（情報公開法）を活用して明らかにしてくれました。それで、春日井市での講演はそのことを中心に話したのですが、先述のごとく、アメリカ大統領選挙が近くなればなるほど次の「コロナ騒ぎ」が仕掛けられる恐れが濃厚になってきました。

だからこそ「コロナとウクライナをむすぶ黒い太縄」4巻を一刻も早く出版して欲しいとの要求がでてくるのでしようが、私も正直言って疲れてきています。

というわけで、ウクライナ紛争が一刻も早く終わることを願っています。さもないと、いつまで経っても本当に書きたいこと、すなわち「寺島メソッド健康教室」や「野草・野菜・花だより」「薬草・薬木・花だより」が書けませんし、読みたい本も読めません。

庭も荒れ放題ですが手を入れている暇がありません。

4

とはいえ、ウクライナへの援助が続く限り、戦争が続きます。平和を一刻も早く取りもどすにはウクライナ支援をやめるのが一番の近道なのですから、そのことをせめて日本の皆さんに知っていただかなくてはなりません。

そのためには、まずゼレンスキー政権が「どれほど腐敗した人権侵害国家であるか」ということを知っていただか

必要もあります。

なぜなら岸田政権はアメリカの戦略にのせられ、莫大な税金を使ってウクライナ支援とロシアへの制裁を止めようとしませんから、日本の経済は疲弊するばかりだからです。日本の教育も混乱と疲弊の極致です。

彼らが推進しているのは、「マイナンバーカード」や「インボイス制度」など、国民の誰もが要求していない政策ばかりです。

そのうえ中国との戦争にまで引き出されようとしています。莫大な軍事費をかけて、アメリカから巨額の兵器を買われ、沖縄諸島に次々と軍事基地を拡大しているのは、その証左でしょう。

このままでは日本も「第2のウクライナ」になり、「使い捨て」にされる恐れも出てきました。

5

だとすると、今しばらくは私も老体に鞭うって、茨つばきの道歩んでいかななくてはならないようです。共産党ですら上記のことが分かっているのですから。

皆さんからの強い要求もさることながら、私が「コロナとウクライナをむすぶ黒い太縄」全4巻を一刻も早く出さなくてはという思いに駆られたのは、以上のような理由にあります。御理解いただければ幸いです。

もくじ

第1章 安倍暗殺を再考する……………11

——日本を「第2のウクライナ」にしないために

第2章 「玉碎」^{ぎくさい}を強いられるウクライナ兵……………47

——腐敗、暗殺、臓器売買の世界的中心ウクライナ

第3章 プーチンがロシア大統領官邸を爆撃？……………63

——無人機によるクレムリン攻撃から何を読みとるか

第4章 正規戦では勝てないからこそ、ウクライナは国家テロ……………87

——ドゥギナ暗殺、タタルスキー暗殺、プリレーピン暗殺、そして「次の標的は誰にする？」

第5章 バフムートで「玉碎せよ」……………107

——反転大攻勢が失敗したあと、暗殺作戦をさらに広げるウクライナ

第6章 「托鉢旅行」「サーカス巡業」の成果やいかに……………129

——ゼレンスキーの広島サミット参加は、バフムート陥落と同時だった

第7章 自国民をドニエプルの川底に沈める？……………157

——世紀の戦争犯罪「カホフカダム爆破」「おぞましい臓器販売」

第8章 プリゴジンの乱、プリゴジンの死……………201

——今後、世界はどのように変わるのだろうか

『コロナとウクライナをむすぶ黒い太縄1〜4』もくじ紹介

第1巻 まだどれだけ殺すつもりか

イベルメクチン圧殺とファシズム化するアメリカ

- 第1章 インドネシアを日本と間違えた？
―それはイベルメクチン効果が抜群だったから
- 第2章 オミクロン変異株は本当に脅威か
―弱毒株を強毒株に変えるみごとな方法
- 第3章 ファシズム化するアメリカ
―女医メリル・ナス博士への迫害と壮絶なる闘い
- 第1節 イベルメクチンを処方して、医師免許の停止と精神鑑定
- 第2節 ナス博士「憲法で守られていたはずの権利が剥奪された」
殺人ワクチン、その危険度はそれぞれ違う
- 第4章 「私のワクチンはどれほど悪いか」を調べる方法
―「イベルメクチンはオミクロン株にも有効」
―だが興和(株)はこの中間発表をあとになって：
―「イベルメクチンはワクチン後遺症にも有効」
- 第6章 「このイスラエルの一流医師の論文は掲載を拒否される」
―ワクチンより自然免疫の方がいい」
- 第7章 「ファイザー社員、隠し撮りを知らずに思わず告白」
第1節 PCR検査は感染者数をふやす「魔法の杖」
第2節 イギリス健康安全局「ワクチンは免疫力を永遠に奪う」

第8章

コロナ出現にアメリカ政府が関与の疑い

―高名なる医学誌「ランセット」コロナ調査委員会委員長の暴露

第9章

ワクチンは、うてばうつほどコロナをふやす
―予防薬だったはずが、生物兵器・殺人兵器？

第2巻

「プーチンの大罪」？ そして未来はEUの崩壊か

ゼレンスキーの降伏か

- 第1章 プーチン、ついに堪忍袋の緒が切れた！
―アルマゲドン將軍の登場、ようやくウクライナ全土にミサイル攻撃
- 第2章 EUの崩壊か ゼレンスキーの降伏か
―代わりに台頭するBRICSと上海協力機構(SCO)
- 第3章 ロシア軍のヘルソン撤退は、ウクライナ軍にとって「ビュロスの勝利」
―バイデンはボケ？ ヘルソン(ウクライナ)をファルージャ(イラク)と間違える
- 第4章 ゼレンスキーはやつぱりオオカミ少年
―「ロシアのミサイルがポーランドに着弾」との嘘でNATOを全面戦争に

第5章

プーチンの大罪？なぜ8年前に進攻しなかったのか

― 厳寒と暗闇のウクライナから脱出する政権エリートたち

第6章

イベルメクチン、ブラジルで8万人を対象に治療が成功

― 水俣病の認定まで14年、ワクチン停止までまだどれだけ殺すつもりか

第7章

誰も知らない今の日本

― ワクチンもコロナ死も「世界一」

第3巻

闘うイベルメクチンの飲み方・使い方

コロナもワクチンも、国防総省が

開発した生物兵器

第1章

コロナの悪魔化とプーチンの悪魔化

― CIAの恐るべきメディア支配「モッキンバード作戦」

第2章

サーシャ・ラティボワ女史の衝撃的発見

― コロナもワクチンも、ペンタゴンの生物兵器・軍事作戦

第3章

デイリアナ・ガイタンジエバ女史の衝撃的研究

― ロシアを標的にして、生物兵器研究と軍事作戦は果てしなく

第4章

闘うイベルメクチンの飲み方・使い方

― コロナの予防と治療にも、ワクチン後遺症にも有効

第5章

医療界に孤高の闘いを挑むテス・ローリー博士

― コロナ騒ぎの謎解きは、イベルメクチン圧殺の謎解きに等しい

第6章

秋月辰一郎医師の実践した「和食の底力」

― コロナとワクチン後遺症に、「長崎の奇跡」を再び

第4巻

殺ったのは誰？なぜ？

安倍暗殺からブリゴジンの死まで

第1章

安倍暗殺を再考する

― 日本を「第2のウクライナ」にしないために

第2章

「玉砕」を強えられるウクライナ兵

― 腐敗、暗殺、臓器売買の、世界的中心ウクライナ

第3章

プーチンがロシア大統領領官邸を爆撃？

― 無人機によるクレムリン攻撃から何を読みとるか

第4章

正規戦では勝てないからこそウクライナは国家テロ

― ドウギナ暗殺、タタルスキー暗殺、ブリレーピン暗殺、

そして「次の標的は誰にする？」

第5章

バフムートで「玉砕せよ」

― 反転大攻勢が失敗したあと、暗殺作戦をさらに広げる

第6章

ウクライナ「托鉢旅行」「サーカス巡業」の成果やいかに

― ゼレンスキーの広島サミット参加は、バフムート陥落と

同時だった

第7章

自国民をドニエプルの川底に沈める？

― 世紀の戦争犯罪「カホフカダム」の爆破「おぞましい臓器売買」

第8章

ブリゴジンの乱、ブリゴジンの死

― 今後、世界はどのように変わるのだろうか

凡例 はんれい

本書ではウクライナの首都を「キエフ」と記述しています。

しかし最近の大手メディアは、これを「キーウ」と表記することが多くなってきたように思います。とはいえ本書では「キエフ」という表記のままにしています。

理由は二つあります。ひとつは本書がブログの連載をもとにしていますから、これを途中から「キーウ」に変えたと読者に混乱が起きるからです。私も新聞が突然「キーウ」という表記を使い始めたとき、一瞬、頭が混乱しました。すぐに頭に浮かんだのが果物の「キウイ」だったからです。もうひとつの理由は、英字新聞もウィキペディア日本語版も、表記は「[Kiev]「キエフ」のままだからです。英字新聞もウィキペディアも表記を変更しなかったのは私と同じ理由ではなかったかと思われま

す。ウクライナ政府がロシア語の使用を国民全員に禁止したことを受けて、日本政府や多数の大手メディアは、ロシア

語に由来する「キエフ」表記からウクライナ語に由来する「キーウ」表記への変更をおこなったのでしよう。

しかし、そもそも「ロシア語の使用を国民全員に禁止すること」自体が、国際人権法で保証された「言語権」を踏みにじるものです。今回の「ウクライナ問題」はアメリカが仕組んだ二〇一四年のウクライナのクーデター政権が、今までドンバス地方の住民に保証されていたロシア語による会話、ロシア語による学習を禁止する政策を強めてきたことに、その一因があります。

かつて明治政府が沖縄県民に「琉球語」による会話を厳しく禁じる政策をとってきたのと似ています。沖縄県では学校で琉球語で話す生徒に「方言札」ふたを付けさせましたが、現在のウクライナ政府がとっている政策は、国際人権法で保証されている「母語で学習する権利」を土台から踏みにじるものです。

ですから、日本政府や大手メディアは、ロシア語に由来する「キエフ」表記からウクライナ語に由来する「キーウ」表記へと、安易な変更をおこなうのではなく、むしろ現在

のウクライナ政府がとっている言語政策そのものについて、厳しく批判すべきだったのではないだろうか。そうすれば今の「ウクライナ危機」をもたらした原因の半分は未然に防げたはずですから。

他にもネオナチの武装集団「アゾフ大隊」がウクライナ正規軍に組み込まれてからは「アゾフ連隊」に名前が変更になりましたが、これも本書では「アゾフ大隊」のままにしてあります。

ドンバス住民には通称「アゾフ大隊」として知られていたからです。「泣く子も黙る、アゾフ大隊」だったわけですから。というのは、マリウポリ市でウクライナ軍によって「人間の盾」にされていた市民が、ロシア軍によって解放されてから、口々にウクライナ軍とりわけ「アゾフ大隊」の残虐さを、彼らに取材したジャーナリストに語っているからです。

そのとき市民は「アゾフ連隊」と言わず、ほとんどの市民が「あのアゾフ大隊が…」と言っていたそうです。それほど「アゾフ大隊」の恐ろしさは住民に知れわたっていたということでしょう。



ロシア編入の是非を問う「住民投票」があった州

